

特集

# みんなの選択 みんなの未来 — 18歳選挙権 —

投票箱

あなたは初めて投票所に行った  
ときのことを覚えていますか。

本年6月に公職選挙法の改正が  
施行され、選挙権年齢が、満20歳  
以上から満18歳以上に引き下げら  
れました。

7月10日執行の参議院議員通常  
選挙から適用され、たくさんの若  
者が初めての選挙を経験します。

この機会に家庭、職場、そして  
学校で、選挙の話をしてみませ  
んか。

あなたの選択が未来をつくるか  
もしれません。

「初めての選挙に対する、あなたの思いを聞かせてください」



髙橋 隼さん (白河旭高3年) / 東深仁井田 / 将来の夢「ロボット技術者」

責任をもって投票したい

選挙を通し、高校3年生という立場で、社会に対し意見を示せるのはとてもいい機会だと思います。政治に興味のない人も、選挙をきっかけに政治や社会について考えるようになって考えています。

選挙にはとても興味がありますが、候補者や政党について、どうやって情報収集すればいいのかわかりません。テレビや新聞の報道は素直に信用できない部分があると感じているので、大人はどう情報を集めて判断しているのか知りたいです。

投票率を上げるには、親から子へ、選挙の大切さを伝えることが一番の近道だと思います。また、政治家のイメージが悪いことも、投票率が低い原因の一つだと思うので、政治家の方にはクリーンな政治をしてほしいと思います。

初めての選挙、誰かの意見ではなく、自分で考えて責任をもって投票したいです。



碧島 麗さん (白河旭高3年) / 新白河 / 将来の夢「グラフィックデザイナー」

ちゃんと向き合いたい

毎日、勉強や部活、それに自分の趣味などがあり、いつも政治や社会の事を考えて生活しているわけではないので、選挙の時だけで候補者などを判断するのは難しいと感じています。きっと若い人の投票率が低いのは、政治に興味がないわけじゃなく、他に夢中になっていることがたくさんあるからだと思います。

投票する時は、税金を上手く配分してくれる人を選びたいと思います。また、これからの将来の事を考えると、奨学金や子育て事業に対して、候補者がどのように考えているのか、とても気になります。

今までの社会が選挙で変わってきたのであれば、これからの選挙で社会は変えられるのかなと考えています。

初めての選挙、自分の中で理解して消化できるかどうか、まだよくわかりませんが、ただ、ちゃんと向き合いたいと思います。



久保由直さん (白河実業高3年) / 真舟 / 将来の夢「保育士」

形式だけでも経験したい

選挙権年齢が引き下げられ、いざ投票してくださいと言われても、今まで選挙についてきちんと教えられてこなかったのか戸惑ってしまいます。

今、政治家が変わっても自分の生活は何も変わらないと思うので、政治が遠くに感じます。正直、現状を維持したまま、何も変わらない方がいいのかなと思ってしまい、自分から積極的に候補者の意見や考えを調べようとは今のところ思えていません。

候補者の方には、何をしたいのか、どういった意見があるのか、若い世代の自分たちにもわかるようにSNSなども活用して、積極的に伝えてほしいと思います。

初めての選挙、投票には行きたいと思います。何を基準に選べいいかわからないですが、形式だけでも経験して次の選挙にいかしたいと思います。



「選挙、行きます！」

届けよう、若者の思い。

▲市長との懇談会に参加した高校生たち (6月6日/コミュニティ・カフェEMANON)

そのための、10代から社会の担い手であるという意識を高め、主体的に政治に関わり参加する若者が増えて欲しい、そして未来を生きる若者の意見を国や地方の政治に届けて欲しい、との思いから、選挙権年齢が引き下げられました。選挙権年齢の引き下げに伴い、全国で約240万人、本市では約1,400人の若い世代の有権者が誕生し、初めての選挙を経験します。

また、若い世代ほど投票率が低く(6ページ図2参照)、若者の意見が国や地方の政治に届きにくい状況になっています。

日本は今、少子高齢化、人口減少社会を迎えています。高齢者の割合が増加する一方、若者の割合が大幅に減少しています。

選挙年齢を引き下げる公職選挙法の改正が6月に施行され、いよいよ18歳以上の有権者を対象とした選挙が行われます。

《各国の選挙権年齢》

25歳	アラブ首長国連邦
21歳	オマーン、クウェート、シンガポール、マレーシアなど
20歳	カメルーンなど
19歳	韓国
18歳	米国、英国、イタリア、オーストラリア、カナダ、ドイツ、フランス、ロシアなど
17歳	東ティモールなど
16歳	アルゼンチン、オーストリア、キューバ、ブラジルなど

今月号では、初めて選挙を経験する若い世代はどんな気持ちで選挙と向き合っているのか、若者の思いを紹介するとともに、選挙の意義について一緒に考えてみます。

海外の選挙事情  
国立国会図書館の調査(平成26年)では、世界191の国と地域の約9割で、18歳までに選挙権が認められており、海外の選挙権年齢は「18歳以上」が主流となっています。こうした状況からも選挙権年齢の引き下げは、世界の選挙事情に沿ったものといえます。

市長がエマノンにやって来た！！

6月6日、コミュニティ・カフェEMANON(本町)で、鈴木市長と高校生による懇談会が行われ、次世代を担う若者が日頃から考えていることなどについて、市長と意見を交わしました。

参加した高校生からは、利用機会の多い図書館や現在建設中の白河文化交流館「コミネス」に対する要望のほか、市政を身近に感じるためにも情報発信の手段として、ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)を積極的に活用してほしいなどの意見が出されました。

高校生の積極的な意見に市長も熱心に耳を傾け、文化施設へ込めた思いを語り、若い世代へエールをおくりました。



